

『追録』

葛港(樹村町)のこと

林 寅喜

(会員・佐伯市中の島)

一九四号で所沢市にお住まいの出納和基氏が、昔、私  
が覚えていた懐かしい土地(樹村町)を紹介してくれた。  
そこで、原文との齟齬はご容赦頂き、記憶をたどりなが  
ら追録して見たいと思う。

明治十六年城下から葛に通ずる道が、白坪・松ヶ鼻・  
平野・田野浦経由で開通してから十一年後、独歩兄弟が  
山際の坂本邸を出て葛の鎌田旅館に移ったのは、二十七  
年七月のことであった。

当時の葛は道路に添って山際に住家が建ち、前は浜続  
きに波が寄せるといふ寒村に過ぎなかった。その海岸が  
埋立てられて宅地化されたのは、ずっと後昭和に入っ

からのことで、七年十月に着工した佐伯町の上水道計画  
図には、道路網が線引きされて給水管敷設まで盛り込ま  
れていることから、その頃すでに宅地造成は完了してい  
たと考えられる。そこで、七年以前の経緯について調べ  
たところ、同四年十一月十三日、上浦町津井浦の樹村園  
治という人が、埋立てにより所有権を取得していること  
が分かった。その面積およそ一・九五<sup>ヘクタール</sup>。

こうした事情から樹村町の名が生まれたようであるが、  
五十六年十一月、住居表示のスタートにより葛港となっ  
て今日に至っている。

樹村氏は埋め立てと同時に貸家建築もしたが、地盤沈  
下を概念に入れたものか、どの家もトタン葺きであった。  
なお、側溝整  
備と路面舗装  
は、のちにな  
って失業対策  
事業で実施さ  
れたと記憶し  
ている。

